



～バンダイこどもアンケートレポート Vol.45

「お子様の誕生日にする(したい)ことは何ですか？」

親も頑張って思い出に残る記念日に

この調査は雑誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象としたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集

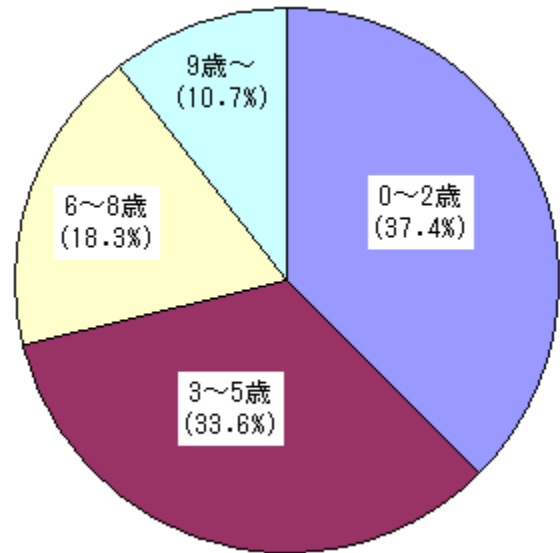
実施時期：1998年12月

質問内容：お子様の誕生日にする（したい）ことは何ですか

有効回答数：421人

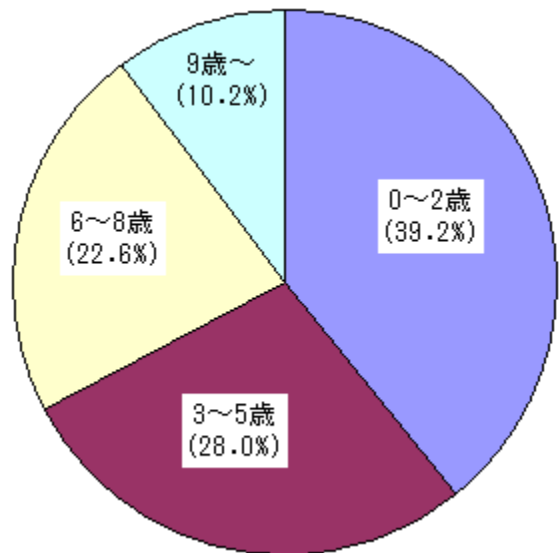
★男児の母親★

年齢内訳	0～2歳	88人
	3～5歳	79人
	6～8歳	43人
	9歳～	25人
	<hr/>	
	計	235人



★女兒の母親★

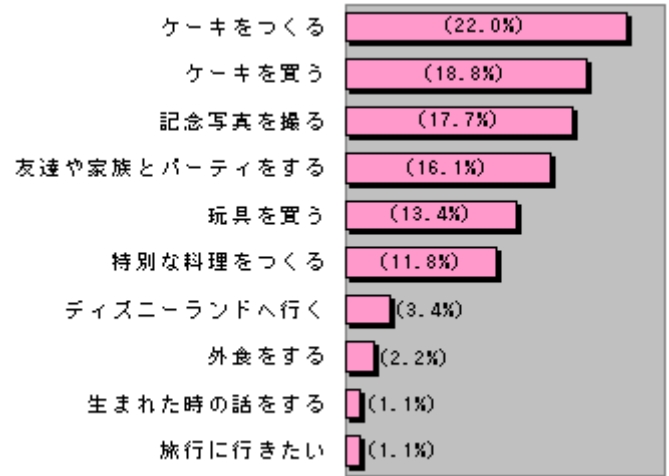
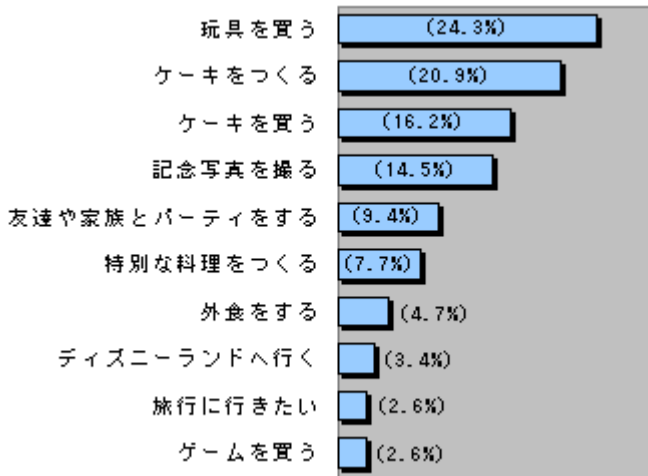
年齢内訳	0～2歳	73人
	3～5歳	52人
	6～8歳	42人
	9歳～	19人
	<hr/>	
	計	186人



<アンケート総合結果>

★男児（235人中／複数回答含む）

☆女兒（186人中／複数回答含む）



<アンケート結果より>

こどもの性別・年齢は関係なく、こどもの誕生日にはケーキを準備するという回答が上位となった。またケーキは買うよりもつくる家庭のほうが多く、こどもにとっての特別な日ということで張り切る親が多いようだ。

おもちゃを買ってあげるなどプレゼントにまつわる回答も10位以内に入っているが、家族揃って写真を撮ったり、外食したり、ディズニーランドに行くなど家族で何かをして思い出に残る記念日にする家族も多いようだ。こどもを喜ばせたいのはもちろんだが、中には親がパーティで仮装する、撮った写真でカレンダーをつくる、1年に1粒ずつ真珠をあげるなど、親の側も演出に工夫を凝らして楽しむ様子もうかがえる。

友達や家族でパーティをするという回答は、男女とも6～8歳では1位だが、その他の年齢層では5位以下となっている。5歳以下の幼児の場合はおとなしく座ってのパーティは難しいが、6歳以上であればパーティという形式も成り立つ。また小学校にあがりたてということで、親子とも友達の輪を広げていきたいということなのかもしれない。

＜年齢層別結果（いずれも複数回答含む）＞

★男児 0～2 歳（88 人中）

1. 玩具を買う	28.4%
2. ケーキをつくる	19.3%
3. 記念写真を撮る	15.9%
4. ケーキを買う	13.6%
5. パーティをする	12.5%

☆女兒 0～2 歳（73 人中）

1. 記念写真を撮る	23.3%
2. ケーキをつくる	21.9%
3. 玩具を買う	16.4%
4. ケーキを買う	15.1%
5. パーティをする	13.7%

★男児 3～5 歳（79 人中）

1. ケーキをつくる	27.8%
2. 玩具を買う	24.1%
3. ケーキを買う	17.7%
記念写真を撮る	17.7%
5. パーティをする	12.7%

☆女兒 3～5 歳（52 人中）

1. ケーキをつくる	26.9%
ケーキを買う	26.9%
3. 記念写真を撮る	23.1%
4. 玩具を買う	13.5%
特別な料理をつくる	13.5%

★男児 6～8 歳（43 人中）

1. パーティをする	25.6%
2. 玩具を買う	23.3%
3. ケーキを買う	16.3%
4. 記念写真を撮る	14.0%
5. ケーキをつくる	11.6%
特別な料理をつくる	11.6%

☆女兒 6～8 歳（42 人中）

1. パーティをする	31.0%
2. ケーキをつくる	16.7%
ケーキを買う	16.7%
4. 特別な料理をつくる	14.3%
5. 玩具を買う	9.5%

★男児 9 歳～（27 人中）

1. ケーキをつくる	18.5%
ケーキを買う	18.5%
3. 玩具を買う	11.1%
外食をする	11.1%
特別な料理をつくる	11.1%

☆女兒 9 歳～（19 人中）

1. ケーキをつくる	21.1%
特別な料理をつくる	21.1%
3. パーティをする	15.8%
ケーキを買う	15.8%
5. 記念写真を撮る	10.5%

※ このアンケートレポートに関して「子ども調査研究所」の渡部尚美さんから以下のコメントをいただいております。

■こどもの誕生日にする（したい）こと

マンガ「ドラえもん」に、こんなエピソードがあります。未来で、のび太君としずかちゃんは結婚するのですが、その結婚の前に、しずかちゃんがお父さんに言います。「ごめんなさい、お父さん。これまで私、お父さんに何もしてあげられなくて」。それを聞いたお父さんは、「親にとってこどもはね、たとえ何もしなくても、ただ生きていてくれるだけで最高の親孝行なんだよ」…と言います。

こどもの成長の節目ごとに、親はその子が生まれてきた日のこと、そしてそれから今まで育ってきた日々をフラッシュバックのように思い出します。人が一人この世に生まれてくるということに人知を越えた何かを感じ、その後あれやこれやありながらも、なんとか今日まで共に生きてこられたことは、一種の奇跡に近いものと感じられるでしょう。

ですからこどもの誕生日に、親は安堵感のような静かな喜びとともに、日頃は信心と無縁な人でも、何かしら大きなものに対して思わず感謝したくなるような気持ちになるものではないでしょうか。その喜びと感謝の気持ちは、日々の暮らしやこどもの成長の節目ごとに家中に満ちあふれ、その温かな気持ちを呼吸しながらこどもたちは成長していきます。

たとえこどもが、言葉では「誕生日はプレゼントをもらえてケーキが食べられて主役になれるオトクな日」としか考えていなくても、親しい人たちが、自分が生まれてきたことを喜んでいる空気が身体と心を温かく包んでくれていることを感じています。そして、生まれてきたこと、今日まで生きてきたことが、もしかしたら奇跡みたいなことかもしれないとも感じているのではないのでしょうか。理解することよりも、感じるのが得意なのがこどもなのですから。

楽しいこと、うれしいことが大好きな今どきの親たちは、いろいろな演出でそうした気持ちをこどもたちに上手に伝えていることがデータにあらわれています。